

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

（１）大学・学科の設置理念

①大学

千葉工業大学は、昭和17年（1942年）に創立し、私立の工業単科大学として我が国で最も歴史が古い大学のひとつで、80年の歴史と伝統を誇り、設立の趣旨を「志操堅固、学理及び技術に優秀なる工業人材の育成」として、新国土の養成、全人教育、労作教育、塾教育を掲げており、この教育理念は、「世界文化に技術で貢献する」というかたちで現在も建学の精神として受け継がれております。

今後、本学が社会の多様な期待や要請に適切に応え、自律性に基づく多様化や個性化をより一層推進していくためには、自らの責任において、社会や学生のニーズに対応した教育組織の構築や教育内容の充実、教育方法の改善など、学部教育における組織改革や教育改革に格段の努力を注ぐことが重要であるものと考えております。

このような高等教育を取り巻く社会環境の変化や進学希望者の動向などを十分に踏まえるとともに、特に、昨今の高学歴志向の高まりを見据えたうえで、学部教育の一層の充実と発展に向けて、情報工学科・認知情報科学科・高度応用情報科学科の3学科から構成される情報変革科学部及びデジタル変革科学科・経営デザイン科学科の2学科から構成される未来変革科学部を設置することといたしました。

今般の情報変革科学部と未来変革科学部の設置計画は、平成28年（2016年）の工学部改組以降、推進してきた本学の教育研究組織の整備計画の一環として、今後の教員養成の充実への対応を図るものでもあり、本学の建学の精神として掲げている「世界文化に技術で貢献する」のさらなる具現化を目指すものであります。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

本学の情報科学部と社会システム科学部では、各専門分野に関する教育研究活動を通じて、建学の精神として掲げている「世界文化に技術で貢献する」人材の育成を目指すとともに、地域における高等教育機関としての使命を果たすべく、常に教育課程や教育内容をはじめとする教育研究環境の整備と充実に努めてまいりました。

しかしながら、近年、18歳人口の減少や高学歴志向の高まりなど、高等教育を取り巻く環境が大きく変化しており、その方向性も多様化していることから、時代の変化と社会の要請に柔軟に対応しつつ、学部教育の多様な発展に向けた特色ある教育研究に取り組むことによる、高等教育機関としての独自性を発展的に実現する必要性が生じております。

また、学術研究の進展や高度化に伴い、学部教育が対象とする専門領域も広範に及んできているとともに、進学希望者の興味と関心や学習意欲に積極的かつ柔軟に応えていくためには、学生の選択の幅や流動性を高める工夫も重要となっており、学術研究の進展や進学希望者の動向を踏まえた教育組織の整備と充実による、特色ある教育研究に取り組む必要性が生じてきています。

このことから、既設の情報科学部と社会システム科学部における教育実績を基盤として、学部教育としての教育研究体制の充実に向けて、既設の情報科学部と社会システム科学部を発展的に改組し、情報工学科・認知情報科学科・高度応用情報科学科の3学科から構成される情報変革科学部及びデジタル変革科学科・経営デザイン科学科の2学科から構成される未来変革科学部を設置することとしました。

（２）教員養成の目標・計画

①大学

千葉工業大学では、開学当初より工業人材の育成のみならず、人間開発への教育課程の導入を積極的に図ることにより、教員養成にも努めてきており、大学開学後、昭和31年度から高等学校教諭一種（工業）の課程認定を受け、現在では、高等学校教諭一種（理科）及び中学教諭一種（理科）、高等学校教諭一種（数学）及び中学教諭一種（数学）、高等学校教諭一種（情報）、高等学校教諭一種（商業）の課程認定を受けており、教員養成機関として地域に根ざした教員の養成を行ってまいりました。

今後においても、学校教育を取り巻く現状と課題を踏まえたうえで、課程認定大学として教職課程の一層の整備と充実を図るとともに、これまでの本学における教員養成の実績を基盤として、大学教育における教員養成の重要性を

一層認識し、教育課程の改善等に積極的に取り組むとともに、課程認定大学として教員養成を自らの主要な責務として強く自覚し、教員として必要な資質能力を確実に身に付けた人材を送り出すべく、より質の高い教育活動を目指すこととしております。

特に、教員養成に係る学部教育は、教員としての生涯学習の出発点であることを踏まえ、学部卒業後、教員として就業し、成長していく過程において、実務等を通じて体得していくための資質や能力、あるいは継続的な教育や研修の機会等を通じて学んでいくための資質や能力を備えた教員に成長していくうえでの基礎的資質や能力を身に付けた教員の養成を目指すとともに、これを達成するための基礎教育を重視することとしています。

また、教職課程の履修を通じて、学生が教職への理解を深め、教職に就くことに対する確固たる信念を持つこと、専門的な知識と技能を自己の中で統合し、教員として必要な資質能力の全体を確実に形成することができるよう、教職課程における教育内容や指導の充実を図るとともに、個別分野の学問的知識や能力が過度に重視されることのないように留意しつつ、学校現場での実践力や応用力など教職としての専門性の育成を目指すことといたします。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

【情報変革科学部 情報工学科】

情報工学科では、情報と情報技術に関する基礎的な知識と技術を基盤として、それらを適切かつ効果的に活用できる実践的な能力を有して、情報技術を科学的・実証的に考究し、その成果を情報技術の変革に活かすことのできる人材を養成することを使命とします。

この使命を果たすため、情報理論や情報処理などの工業技術に関する基本原理や基本構造と基盤技術及び情報技術を実際に開発する能力を有した職業人の養成を基本目的として、情報技術に関する諸問題を主体的・合理的に解決し、情報技術の変革を実践できる能力と態度を身に付けます。

上記の学科の性格・目的から「情報技術の修得による教科指導における情報手段の活用能力を備えた教員養成」を理念とします。

この理念を実現するための教員養成の構想としては、教職に関する科目や教科に関する科目と関連する一般教養科目の履修を通じて基礎的な知識の修得とともに、教職に関する科目の履修やガイダンス等を通じて、教職に求められる確かな知識や態度を養います。特に、教員養成に係る学部教育は、教員としての生涯学習の出発点であることを踏まえ、学部卒業後、教員として就業し、成長していく過程において、実務等を通じて体得していくための資質や能力、あるいは継続的な教育や研修の機会等を通じて学んでいくための資質や能力を備えた教員に成長していくうえでの基礎的資質や能力を身に付けます。

さらに、学校教育の多様な実態の把握とともに、教育現場における発達支援や教育補助、生徒に対する福祉・心理的援助の活動について学習し、教育実習に必要な実践的指導力を身に付けます。

そのうえで、講義や演習で修得した知識や技能をもとに教育実習を行い、この教育実習を通して教員になるうえでの自己の課題の認識と不足している知識や技能を補うことといたします。

以上の理念・構想から「生徒が数学や情報をよりよく学ぶための道具として、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用できる教員」を情報工学科の目指す教員像とします。

【情報変革科学部 認知情報科学科】

認知情報科学科では、認知機能と情報技術に関する基礎的な知識と技術を基盤として、それらを実社会で実用化するための実践的な能力を有して、認知機能を科学的・実証的に考究し、その成果を情報科学の変革に活かすことのできる人材を養成することを使命とします。

この使命を果たすため、認知科学と情報科学に関する基本原理や基盤技術の習得と知的機能や認知過程を情報処理の観点から応用する能力とともに、認知機能に関する諸問題を主体的・合理的に解決し、情報科学の変革を図る実践的な態度を身に付けます。

上記の学科の性格・目的から「情報技術の修得による教科指導における情報手段の活用能力を備えた教員養成」を理念とします。

この理念を実現するための教員養成の構想としては、教職に関する科目や教科に関する科目と関連する一般教養科目の履修を通じて基礎的な知識の修得とともに、教職に関する科目の履修やガイダンス等を通じて、教職に求められる確かな知識や態度を養います。特に、教員養成に係る学部教育は、教員としての生涯学習の出発点であることを踏まえ、学部卒業後、教員として就業し、成長していく過程において、実務等を通じて体得していくための資質や能力、あるいは継続的な教育や研修の機会等を通じて学んでいくための資質や能力を備えた教員に成長していくうえでの基礎的資質や能力を身に付けます。

さらに、学校教育の多様な実態の把握とともに、教育現場における発達支援や教育補助、生徒に対する福祉・心理的援助の活動について学習し、教育実習に必要な実践的指導力を身に付けます。

そのうえで、講義や演習で修得した知識や技能をもとに教育実習を行い、この教育実習を通して教員になるうえでの自己の課題の認識と不足している知識や技能を補うことといたします。

以上の理念・構想から「生徒が数学や情報をよりよく学ぶための道具として、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用できる教員」を認知情報科学科の目指す教員像とします。

【情報変革科学部 高度応用情報科学科】

高度応用情報科学科では、情報科学の基礎研究を通じて得られた理論や技術を高度情報化社会に向けて創造的に応用できる能力を有して、情報科学を科学的・実証的に考究し、その成果を情報社会の変革に活かすことのできる人材を養成することを使命とします。

この使命を果たすため、情報科学に関する基本原理や基盤技術の習得と情報技術を応用した新たな仕組みや価値を生み出す能力の習得とともに、情報科学の諸問題を主体的・合理的に解決し、情報社会の変革を図る実践的な態度を身に付けます。

上記の学科の性格・目的から「情報技術の修得による教科指導における情報手段の活用能力を備えた教員養成」を理念とします。

この理念を実現するための教員養成の構想としては、教職に関する科目や教科に関する科目と関連する一般教養科目の履修を通じて基礎的な知識の修得とともに、教職に関する科目の履修やガイダンス等を通じて、教職に求められる確かな知識や態度を養います。特に、教員養成に係る学部教育は、教員としての生涯学習の出発点であることを踏まえ、学部卒業後、教員として就業し、成長していく過程において、実務等を通じて体得していくための資質や能力、あるいは継続的な教育や研修の機会等を通じて学んでいくための資質や能力を備えた教員に成長していくうえでの基礎的資質や能力を身に付けます。

さらに、学校教育の多様な実態の把握とともに、教育現場における発達支援や教育補助、生徒に対する福祉・心理的援助の活動について学習し、教育実習に必要な実践的指導力を身に付けます。

そのうえで、講義や演習で修得した知識や技能をもとに教育実習を行い、この教育実習を通して教員になるうえでの自己の課題の認識と不足している知識や技能を補うことといたします。

以上の理念・構想から「生徒が数学や情報をよりよく学ぶための道具として、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用できる教員」を高度応用情報科学科の目指す教員像とします。

【未来変革科学部 経営デザイン科学科】

経営デザイン科学科では、経営活動の効率化に関する基礎的な知識と技術を基盤として、それらを現場で活用できる実践的な能力を有して、経営効率を科学的・実証的に考究し、その成果を経営実践の変革に活かすことのできる人材を養成することを使命とします。

この使命を果たすため、経営活動の効率化に関する基本原理や基盤技術と管理技術の利用による経営資源を効果的に活用する能力とともに、データの科学的な理解に基づく数理知識や情報技術を活用し、経営活動の変革を図る実践的な態度を身に付けます。

上記の学科の性格・目的から「データの科学的な理解に基づく数理知識や情報技術の活用能力を備えた教員養成」を理念とします。

この理念を実現するための教員養成の構想としては、教職に関する科目や教科に関する科目と関連する一般教養科目の履修を通じて基礎的な知識の修得とともに、教職に関する科目の履修やガイダンス等を通じて、教職に求められる確かな知識や態度を養います。

特に、教員養成に係る学部教育は、教員としての生涯学習の出発点であることを踏まえ、学部卒業後、教員として就業し、成長していく過程において、実務等を通じて体得していくための資質や能力、あるいは継続的な教育や研修の機会等を通じて学んでいくための資質や能力を備えた教員に成長していくうえでの基礎的資質や能力を身に付けます。

さらに、学校教育の多様な実態の把握とともに、教育現場における発達支援や教育補助、生徒に対する福祉・心理的援助の活動について学習し、教育実習に必要となる実践的指導力を身に付けます。

そのうえで、講義や演習で修得した知識や技能をもとに教育実習を行い、この教育実習を通して教員になるうえでの自己の課題の認識と不足している知識や技能を補うことといたします。

以上の理念・構想から「データの科学的な理解に基づく数理知識や情報技術をもとにした効果的・効率的な学校運営や学級経営ができる教員」を経営デザイン科学科の目指す教員像とします。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

【情報変革科学部 情報工学科】

(2) ②で示した学科の目的から、中学校及び高等学校「数学」及び高等学校「情報」の教職課程を設置します。

情報工学科が組織として研究対象とする中心的な学問分野は「情報学」であり、情報学の専門分野に関する基礎的・基本的な知識と技術及び技能を習得するための教育課程の編成としています。

また、情報学の専門分野の学修においては、数学の専門分野の修得が不可欠であることから、数学の専門分野に関する基礎的・基本的な知識を習得するための教育課程の編成としています。

情報工学科では、「数学」及び「情報」の教員を養成することが、学科の目的や教育課程から可能であると判断したことが、中学校及び高等学校「数学」及び高等学校「情報」の教職課程を設置する理由です。

・高等学校「情報」

高等学校学習指導要領解説情報編の「専門教科情報科の目標」では、「最新の情報や情報技術についての知識などを基盤として、情報社会の問題を発見・解決する力と、情報や情報技術などを活用することを通して主体的かつ協働的に情報社会に参画する態度を養う」という目標が示されています。

このことは、(2) ②の情報工学科の目的にある「情報技術に関する主体的・合理的に解決し、情報技術の変革を実践できる能力と態度を身に付ける」が「最新の情報や情報技術についての知識などを基盤として、情報社会の問題を発見・解決する」と合致することから、高等学校「情報」の教職課程を設置する意義があります。

・中学校「数学」／高等学校「数学」

中学校学習指導要領解説数学編の「指導計画の作成と内容の取扱い」においては、「コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用し、学習の効果を高めること」が記されています。このことは、(2) ②の情報工学科の目的にある「情報と情報技術に関する基礎的な知識と技術を基盤として、それらを適切かつ効果的に活用できる実践的な能力を有して、情報技術を科学的・実証的に考究し、その成果を情報技術の変革に活かすことのできる人材を養成する」ことが、「コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に活用し、学習の効果を高める」と合致することから、中学校「数学」の教職課程を設置する意義があります。

高等学校学習指導要領解説数学編の「指導計画の作成と内容の取扱い」においては、「コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用し、学習の効果を高めること」と共に、これらの手段により「数学的な思考力などを育成することが大切である」と記されています。このことは、(2) ②の情報工学科の目的にある「情報と情報技術に関する基礎的な知識と技術を基盤として、それらを適切かつ効果的に活用できる実践的な能力を有して、情報技術を科学的・実証的に考究し、その成果を情報技術の変革に活かすことのできる人材を養成する」ことが、「コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に活用し、学習の効果を高める」及び「数学的な思考力などを育

成すること」と合致することから、高等学校「数学」の教職課程を設置する意義があります。

以上のことから、情報工学科に中学校及び高等学校「数学」並びに高等学校「情報」の教職課程を設置する意義・必要性は十分に認められると考えます。

【情報変革科学部 認知情報科学科】

(2) ②で示した学科の目的から、中学校及び高等学校「数学」及び高等学校「情報」の教職課程を設置します。

認知情報科学科が組織として研究対象とする中心的な学問分野は「情報学」であり、情報学の専門分野に関する基礎的・基本的な知識と技術及び技能を習得するための教育課程の編成としています。

また、情報学の専門分野の学修においては、数学の専門分野の修得が不可欠であることから、数学の専門分野に関する基礎的・基本的な知識を習得するための教育課程の編成としています。

認知情報科学科では、「数学」及び「情報」の教員を養成することが、学科の目的や教育課程から可能であると判断したことが、中学校及び高等学校「数学」及び高等学校「情報」の教職課程を設置する理由です。

・高等学校「情報」

高等学校学習指導要領解説情報編の「専門教科情報科の目標」では、「最新の情報や情報技術についての知識などを基盤として、情報社会の問題を発見・解決する力と、情報や情報技術などを活用することを通して主体的かつ協働的に情報社会に参画する態度を養う」という目標が示されています。

このことは、(2) ②の認知情報科学科の目的にある「認知機能に関する主体的・合理的に解決し、情報技術の変革を図る実践的な態度を身に付ける」が「最新の情報や情報技術についての知識などを基盤として、情報社会の問題を発見・解決する」と合致することから、高等学校「情報」の教職課程を設置する意義があります。

・中学校「数学」／高等学校「数学」

中学校学習指導要領解説数学編の「指導計画の作成と内容の取扱い」においては、「コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用し、学習の効果を高めること」が記されています。このことは、(2) ②の認知情報科学科の目的にある「認知機能と情報技術に関する基礎的な知識と技術を基盤として、それらを実社会で実用化するための実践的な能力を有して、認知機能を科学的・実証的に考究し、その成果を情報科学の変革に活かすことのできる人材を養成する」ことが、「コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に活用し、学習の効果を高める」と合致することから、中学校「数学」の教職課程を設置する意義があります。

高等学校学習指導要領解説数学編の「指導計画の作成と内容の取扱い」においては、「コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用し、学習の効果を高めること」と共に、これらの手段により「数学的な思考力などを育成することが大切である」と記されています。このことは、(2) ②の認知情報科学科の目的にある「認知機能と情報技術に関する基礎的な知識と技術を基盤として、それらを実社会で実用化するための実践的な能力を有して、認知機能を科学的・実証的に考究し、その成果を情報科学の変革に活かすことのできる人材を養成する」ことが、「コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に活用し、学習の効果を高める」及び「数学的な思考力などを育成すること」と合致することから、高等学校「数学」の教職課程を設置する意義があります。

以上のことから、認知情報科学科に中学校及び高等学校「数学」並びに高等学校「情報」の教職課程を設置する意義・必要性は十分に認められると考えます。

【情報変革科学部 高度応用情報科学科】

(2) ②で示した学科の目的から、中学校及び高等学校「数学」及び高等学校「情報」の教職課程を設置します。

高度応用情報科学科が組織として研究対象とする中心的な学問分野は「情報学」であり、情報学の専門分野に関する基礎的・基本的な知識と技術及び技能を習得するための教育課程の編成としています。

また、情報学の専門分野の学修においては、数学の専門分野の修得が不可欠であることから、数学の専門分野に関する基礎的・基本的な知識を習得するための教育課程の編成としています。

高度応用情報科学科では、「数学」及び「情報」の教員を養成することが、学科の目的や教育課程から可能であると判断したことが、中学校及び高等学校「数学」及び高等学校「情報」の教職課程を設置する理由です。

・高等学校「情報」

高等学校学習指導要領解説情報編の「専門教科情報科の目標」では、「最新の情報や情報技術についての知識などを基盤として、情報社会の問題を発見・解決する力と、情報や情報技術などを活用することを通して主体的かつ協働的に情報社会に参画する態度を養う」という目標が示されています。

このことは、(2)②の高度応用情報科学科の目的にある「情報科学の諸問題を主体的・合理的に解決し、情報社会の変革を図る実践的な態度を身に付ける」が「最新の情報や情報技術についての知識などを基盤として、情報社会の問題を発見・解決する」と合致することから、高等学校「情報」の教職課程を設置する意義があります。

・中学校「数学」／高等学校「数学」

中学校学習指導要領解説数学編の「指導計画の作成と内容の取扱い」においては、「コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用し、学習の効果を高めること」が記されています。このことは、(2)②の高度応用情報科学科の目的にある「情報科学の基礎研究を通じて得られた理論や技術を高度情報化社会に向けて創造的に応用できる能力を有して、情報科学を科学的・実証的に考究し、その成果を情報社会の変革に活かすことのできる人材を養成する」ことが、「コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に活用し、学習の効果を高める」と合致することから、中学校「数学」の教職課程を設置する意義があります。

高等学校学習指導要領解説数学編の「指導計画の作成と内容の取扱い」においては、「コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用し、学習の効果を高めること」と共に、これらの手段により「数学的な思考力などを育成することが大切である」と記されています。このことは、(2)②の高度応用情報科学科の目的にある「情報科学の基礎研究を通じて得られた理論や技術を高度情報化社会に向けて創造的に応用できる能力を有して、情報科学を科学的・実証的に考究し、その成果を情報社会の変革に活かすことのできる人材を養成する」ことが、「コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に活用し、学習の効果を高める」及び「数学的な思考力などを育成すること」と合致することから、高等学校「数学」の教職課程を設置する意義があります。

以上のことから、高度応用情報科学科に中学校及び高等学校「数学」並びに高等学校「情報」の教職課程を設置する意義・必要性は十分に認められると考えます。

【未来変革科学部 経営デザイン科学科】

(2)②で示した学科の目的から、高等学校「情報」の教職課程を設置します。

経営デザイン科学科が組織として研究対象とする中心的な学問分野は「経営情報学」であり、経営情報学の専門分野に関する基礎的・基本的な知識と技術及び技能を習得するための教育課程の編成としています。

経営情報学の専門分野の学修においては、情報学の専門分野の修得が不可欠であることから情報学の専門分野に関する基礎的・基本的な知識を習得するための教育課程の編成としています。

経営デザイン科学科では、「情報」の教員を養成することが、学科の目的や教育課程から可能であると判断したことが、高等学校「情報」の教職課程を設置する理由です。

また、高等学校学習指導要領解説情報編の「専門教科情報科の目標」では、「最新の情報や情報技術についての知識などを基盤として、情報社会の問題を発見・解決する力と、情報や情報技術などを活用することを通して主体的かつ協働的に情報社会に参画する態度を養う」という目標が示されています。

このことは、(2)②の経営デザイン科学科の目的にある「経営活動の効率化に関する基本原理や基盤技術と管理技術の利用による経営資源を効果的に活用する能力とともに、データの科学的な理解に基づく数理知識や情報技術を活用し、経営活動の変革を図る実践的な態度を身に付ける」が「最新の情報や情報技術についての知識などを基盤として、情報社会の問題を発見・解決する」と合致することから、高等学校「情報」の教職課程を設置する意義があります。

以上のことから、経営デザイン科学科に高等学校「情報」の教職課程を設置する意義・必要性は十分に認められると考えます。

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

組織名称：	教務委員会
目的：	教務委員会に教職課程の教育の充実及び向上に資することを目的として、教職課程運営部会を設置している。 教職課程運営部会では、以下に掲げる事項について審議する。 (1) 教職課程に関する事項 (2) 教職の授業運営に関する事項 (3) 教育実習に関する事項 (4) 介護等体験に関する事項 (5) その他、教職に関する事項
責任者：	教務委員会 委員長
構成員(役職・人数)：	教職課程運営部会構成員 部会長 1 名、教務委員会委員 6 名、教学センター部長 1 名、教学センター教務グループ長 2 名、教務担当職員 6 名 以上 16 名
運営方法：	教務委員会に設置される教職課程運営部会の部会長が中核となり、教職課程運営部会メンバーや各教科担当教員及び教務担当職員等と協力・連携をとりながら運営を行っている。年間約 4 回程度開催している中で、教職課程ガイダンス、教職課程の授業運営、教育実習・介護等体験、学習サポーター派遣、教育委員会等との連携等の協議事項に対する意見交換や議論を踏まえて、教務委員会と調整を行っている。

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図

別添資料を参照。

II. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

- ①「習志野市教育委員会並びに千葉工業大学による相互協力に関する協定」を締結し、学習支援への派遣活動や教育実習への受け入れ等を実施し、教育委員会担当者とも連携・調整を取りながら地域社会の教育活動の向上に資する活動を行っている。
- ②「船橋市教育委員会並びに千葉工業大学による相互協力に関する協定」を締結し、学習支援への派遣活動や教育実習への受け入れ等を実施し、教育委員会担当者とも連携・調整を取りながら地域社会の教育活動の向上に資する活動を行っている。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

①

取組名称：	学生ボランティア派遣事業（習志野市教育委員会）
連携先との調整方法：	習志野市教育委員会と調整を行い、情報交換を行っている。学生募集については、学生ポータルサイトへの掲載及び教職科目担当者からのアナウンスを通じて積極的な参加を促している。
具体的な内容：	学生ボランティアを習志野市内における小中学校の学習支援に派遣している。学生派

様式第7号イ

遣を通じて、学校教育活動の円滑な実施に寄与するとともに、学生の教育に対する意識や関心を高める。

②

取組名称：	学習サポーター派遣事業（船橋市教育委員会）
連携先との調整方法：	船橋市教育委員会の担当者と調整を行い、情報交換を行っている。学生募集については、ポータルサイトや教職科目担当者からの周知のみならず、教職ガイダンス時に教育委員会の担当者を招き、説明会を実施している。
具体的な内容：	船橋市内の小中学校に学習サポーターを随時派遣している。 派遣を通じて、優れた教員の養成と地域教育の発展を図る。

Ⅲ. 教職指導の状況

教職課程履修者に配付している「教職課程履修の手引き」に教職課程担当教員の連絡先を掲載し、随時個別相談に対応できる体制を整えている。

また、履修に関する事務手続きについても、津田沼・新習志野両校舎の教務担当の連絡先を掲載し、相談に対応できる体制を整えている。

4月初旬の新入生ガイダンス期間に、新入生を主な対象者とした教職課程ガイダンスを実施し、教職課程の概要について説明している。

1年次前期科目「教職概論」の第1回目に新入生及び在學生で新規に教職課程の履修を希望する者を対象に各学生の入学年度に応じた「教職課程履修の手引き」を配付し、教職課程履修の詳細について説明している。

様式第7号ウ

＜情報工学科＞（認定課程：中一種免 数学）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ・教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自ら教職キャリア形成を展望する。 ・現代教育に関する基礎的素養（日本国憲法含む）について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学・情報）について理解する。 ・数学の基礎について理解する。
	後期	・教育に関する理念・歴史・思想・制度について理解する。 ・現代の学校教育に関する制度的事項の基本を身に付けるとともに、学校と地域との連携に関する理解と安全への対応を理解する。 ・数学各分野の基礎について理解する。 ・教科に関する実習・演習を通して、数学の基礎的内容を深め、応用力を身に付ける。
2年次	前期	・学習指導要領を基準として各学校で編成される教育課程の意義や編成の方法を理解する。 ・多様な障がい等により特別な支援を必要とする生徒の学習上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員と協働して対応する知識・方法を理解する。 ・中等教育の授業実践について理解し、授業を行うために必要な知識や技能を身に付ける。 ・数学各分野の基本的内容について理解する。
	後期	・生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的事項を理解するとともに、発達段階毎の心理的特性を踏まえた指導法を理解する。 ・介護等体験の意義・目的を理解するとともに、人間の尊厳・社会連携の理念に関する認識を深め、介護体験の動機付けや意識形成を図る。 ・教科に関する実習・演習を通して、数学の内容を深め、応用力を身に付ける。 ・数学各分野の基本的内容について理解する。 ・数学科教育法の基礎的理論を理解する。
3年次	前期	・生徒の進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善、体験活動及び評価改善の推進やガイダンス、カウンセリングの素養を身に付ける。 ・学校と地域との連携・協働の必要性、学校における危機管理や事故対応の必要性を理解する。 ・総合的な学習（探究）の時間の理論と指導法の知識・技能を身に付ける。 ・将来の社会を担う子供たちに必要な資質・能力の教育方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する知識・技能を身に付ける。 ・数学各分野の発展的内容について理解する。 ・数学科教育法の発展的理論を理解する。
	後期	・道徳の意義と原理を踏まえ、道徳科の目標、内容及び指導計画を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成を通して、実践的な指導力を身に付ける。 ・教育活動の意義と目標を踏まえ、諸活動の内容を理解するとともに、特別活動の指導のあり方を理解する。 ・学校現場におけるカウンセリングの課題を理解するとともに、カウンセリングを進める際に必要な知識を身に付ける。 ・数学各分野の発展的内容について理解する。 ・数学科教育法の実践的理論を理解する。
4年次	前期	・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、実験、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・児童生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・数学各分野・数学科教育法の理解をもとに数学科教員としての実践的指導力を身に付ける。
	後期	・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・数学各分野・数学科教育法の理解をもとに数学科教員としての実践的指導力を身に付ける。

様式第7号ウ（教諭）

<情報工学科>（認定課程：中一種免 数学）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
年次	時期	各教科の指導法に関する科目 及び教育の基礎的理解に関する 科目等	教科に関する専門的 事項に関する科目	大学が独自に 設定する科目	施行規則第66条の6に関す る科目	その他教職課 程に関連のあ る科目
1年次	前期	教職概論	数学基礎		スポーツ科学	
					英語理解基礎1	
					英語表現基礎1	
					英語理解1	
					英語表現1	
					英語理解発展1	
					英語表現発展1	
					数理・データサイエンス・AI入門	
					初年次教育	
	後期	教育原理	グラフィックス		憲法と社会	
		教育行政学	微分積分		AI・プログラミング基礎演習	
			アジャイルワーク1			
2年次	前期	教育課程論	線形代数基礎			
		数学科教育法1	幾何学1			
		特別支援教育論	解析学1			
			システム理論			
			確率統計			
	後期	教育心理学	線形代数応用	介護体験入門		
		数学科教育法2	幾何学2			
			解析学2			
			数理モデリング			
			アジャイルワーク2			
3年次	前期	生徒指導・進路指導論	離散数学			
		学校経営・連携の理論と実践	微分方程式			
		教育の方法・技術とICT	線形代数特論			
		総合的な学習（探究）の時間の理論と実践	数値解析			
		数学科教育法3				
	後期	道徳教育の理論と実践	応用解析			
		特別活動論	統計解析			
		教育相談	初等整数論			
		数学科教育法4	情報理論			
4年次	前期	教育実習事前事後指導				卒業研究
		教育実習A				
	後期	教職実践演習（中・高）				卒業研究
		教育実習A				

様式第7号ウ

＜情報工学科＞（認定課程：高一種免 数学）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ・教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自ら教職キャリア形成を展望する。 ・現代教育に関する基礎的素養（日本国憲法含む）について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学・情報）について理解する。 ・数学の基礎について理解する。
	後期	・教育に関する理念・歴史・思想・制度について理解する。 ・現代の学校教育に関する制度的事項の基本を身に付けるとともに、学校と地域との連携に関する理解と安全への対応を理解する。 ・数学各分野の基礎について理解する。 ・教科に関する実習・演習を通して、数学の基礎的内容を深め、応用力を身に付ける。
2年次	前期	・学習指導要領を基準として各学校で編成される教育課程の意義や編成の方法を理解する。 ・多様な障がい等により特別な支援を必要とする生徒の学習上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員と協働して対応する知識・方法を理解する。 ・高等教育の授業実践について理解し、授業を行うために必要な知識や技能を身に付ける。 ・数学科教育法の基礎的理論を理解する。 ・数学各分野の基本的内容について理解する。
	後期	・生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的事項を理解するとともに、発達段階毎の心理的特性を踏まえた指導法を理解する。 ・教科に関する実習・演習を通して、数学の内容を深め、応用力を身に付ける。 ・数学各分野の基本的内容について理解する。 ・数学科教育法の発展的理論を理解する。
3年次	前期	・生徒の進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善、体験活動及び評価改善の推進やガイダンス、カウンセリングの素養を身に付ける。 ・学校と地域との連携・協働の必要性、学校における危機管理や事故対応の必要性を理解する。 ・総合的な学習（探究）の時間の理論と指導法の知識・技能を身に付ける。 ・将来の社会を担う子供たちに必要な資質・能力の教育方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する知識・技能を身に付ける。 ・数学各分野の発展的内容について理解する。
	後期	・道徳の意義と原理を踏まえ、道徳科の目標、内容及び指導計画を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成を通して、実践的な指導力を身に付ける。 ・教育活動の意義と目標を踏まえ、諸活動の内容を理解するとともに、特別活動の指導のあり方を理解する。 ・学校現場におけるカウンセリングの課題を理解するとともに、カウンセリングの進める際に必要な知識を身に付ける。 ・数学各分野の発展的内容について理解する。 ・数学科教育法の実践的理論を理解する。
4年次	前期	・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、実験、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・児童生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・数学各分野・数学科教育法の理解をもとに数学科教員としての実践的指導力を身に付ける。
	後期	・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・数学各分野・数学科教育法の理解をもとに数学科教員としての実践的指導力を身に付ける。

様式第7号ウ（教諭）

<情報工学科>（認定課程：高一種免 数学）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	前期	教職概論	システム理論		スポーツ科学	
					英語理解基礎1	
					英語表現基礎1	
					英語理解1	
					英語表現1	
					英語理解発展1	
					英語表現発展1	
					数理・データサイエンス・AI入門	
					初年次教育	
	後期	教育原理	グラフィックス		憲法と社会	
		教育行政学	数理モデリング		AI・プログラミング基礎演習	
			アジャイルワーク1			
2年次	前期	教育課程論	幾何学1			
		数学科教育法1	解析学1			
		特別支援教育論	数学基礎			
			微分積分			
			確率統計			
	後期	教育心理学	線形代数基礎			
		数学科教育法2	幾何学2			
			解析学2			
			微分方程式			
			アジャイルワーク2			
3年次	前期	生徒指導・進路指導論	線形代数応用			
		学校経営・連携の理論と実践	離散数学			
		教育の方法・技術とICT	数値解析			
		総合的な学習（探究）の時間の理論と実践	情報理論			
		数学科教育法3				
	後期	特別活動論	応用解析	道徳教育の理論と実践		
		教育相談	統計解析			
		数学科教育法4				
4年次	前期	教育実習事前事後指導	線形代数特論			卒業研究
		教育実習B				
	後期	教職実践演習（中・高）	初等整数論			卒業研究
		教育実習B				

様式第7号ウ

＜情報工学科＞（認定課程：高一種免 情報）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ・教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自ら教職キャリア形成を展望する。 ・現代教育に関する基礎的素養（日本国憲法含む）について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学・情報）について理解する。 ・情報各分野の基礎的素養を演習も交えて理解する。
	後期	・教育に関する理念・歴史・思想・制度について理解する。 ・現代の学校教育に関する制度的事項の基本を身に付けるとともに、学校と地域との連携に関する理解と安全への対応を理解する。 ・情報各分野の基礎について理解する。 ・教科に関する実習・演習を通して、情報の基礎的内容を深め、応用力を身に付ける。
2年次	前期	・学習指導要領を基準として各学校で編成される教育課程の意義や編成の方法を理解する。 ・現代の学校教育に関して「生涯学習」の視点から、青少年の教育のあり方を理解する。 ・多様な障がい等により特別な支援を必要とする生徒の学習上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員と協働して対応する知識・方法を理解する。 ・高等教育の授業実践について理解し、授業を行うために必要な知識や技能を身に付ける。 ・情報科教育法の基礎的理論を理解する。 ・情報各分野の内容を演習も交えて実践的に理解する。
	後期	・生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的事項を理解するとともに、発達段階毎の心理的特性を踏まえた指導法を理解する。 ・教科に関する実習・演習を通して、情報の内容を深め、応用力を身に付ける。 ・情報各分野の基本的内容について理解する。 ・情報科教育法の発展的理論を理解する。
3年次	前期	・生徒の進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善、体験活動及び評価改善の推進やガイダンス、カウンセリングの素養を身に付ける。 ・学校と地域との連携・協働の必要性、学校における危機管理や事故対応の必要性を理解する。 ・総合的な学習（探究）の時間の理論と指導法の知識・技能を身に付ける。 ・将来の社会を担う子供たちに必要な資質・能力の教育方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する知識・技能を身に付ける。 ・情報各分野の発展的内容を演習も交えて実践的に理解する。
	後期	・道徳の意義と原理を踏まえ、道徳科の目標、内容及び指導計画を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成を通して、実践的な指導力を身に付ける。 ・教育活動の意義と目標を踏まえ、諸活動の内容を理解するとともに、特別活動の指導のあり方を理解する。 ・学校現場におけるカウンセリングの課題を理解するとともに、カウンセリングの進める際に必要な知識を身に付ける。 ・情報各分野の発展的内容について理解する。
4年次	前期	・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、実験、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・情報各分野・情報科教育法の理解をもとに情報科教員としての実践的指導力を身に付ける。
	後期	・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・情報各分野・情報科教育法の理解をもとに情報科教員としての実践的指導力を身に付ける。

様式第7号ウ（教諭）

<情報工学科>（認定課程：高一種免 情報）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	前期	教職概論	情報工学概論		スポーツ科学	
			論理回路		英語理解基礎1	
			プログラミング言語		英語表現基礎1	
			フィジカルコンピューティング		英語理解1	
					英語表現1	
					英語理解発展1	
					英語表現発展1	
					数理・データサイエンス・AI入門	
					初年次教育	
	後期	教育原理	Webプログラミング		憲法と社会	
		教育行政学	データサイエンス		AI・プログラミング基礎演習	
			データ通信			
			デジタル信号処理			
			メディア処理			
2年次	前期	教育課程論	ソフトウェア工学			
		情報科教育法1	ハッカソン1			
		特別支援教育論	クラウドコンピューティング			
			ビジュアル情報処理			
	後期	教育心理学	クリティカルエンジニアリング			
		情報科教育法2				
3年次	前期	生徒指導・進路指導論	技術者倫理			
		学校経営・連携の理論と実践	アルゴリズムとデータ構造			
		教育の方法・技術とICT	オペレーティングシステム			
		総合的な学習（探究）の時間の理論と実践	ハッカソン2			
			感性情報処理			
			データベース			
			デジタル通信			
	後期	特別活動論	高性能計算	道徳教育の理論と実践		
		教育相談	人工知能			
			機械学習			
			情報と職業			
4年次	前期	教育実習事前事後指導				卒業研究
		教育実習B				
	後期	教職実践演習（中・高）				卒業研究
		教育実習B				

様式第7号ウ

<認知情報科学科> (認定課程: 中一種免 数学)

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ・教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自ら教職キャリア形成を展望する。 ・現代教育に関する基礎的素養(日本国憲法含む)について理解する。 ・教職に関する基礎的素養(スポーツ・語学・情報)について理解する。 ・数学の基礎素養を演習も交えて理解する。
	後期	・教育に関する理念・歴史・思想・制度について理解する。 ・現代の学校教育に関する制度的事項の基本を身に付けるとともに、学校と地域との連携に関する理解と安全への対応を理解する。 ・数学各分野の基礎について理解する。 ・教科に関する実習・演習を通して、数学の基礎的内容を深め、応用力を身に付ける。
2年次	前期	・学習指導要領を基準として各学校で編成される教育課程の意義や編成の方法を理解する。 ・多様な障がい等により特別な支援を必要とする生徒の学習上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員と協働して対応する知識・方法を理解する。 ・中等教育の授業実践について理解し、授業を行うために必要な知識や技能を身に付ける。 ・数学各分野の基本的内容について理解する。
	後期	・生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的事項を理解するとともに、発達段階毎の心理的特性を踏まえた指導法を理解する。 ・介護等体験の意義・目的を理解するとともに、人間の尊厳・社会連携の理念に関する認識を深め、介護体験の動機付けや意識形成を図る。 ・教科に関する実習・演習を通して、数学の内容を深め、応用力を身に付ける。 ・数学各分野の基本的内容について理解する。 ・数学科教育法の基礎的理論を理解する。
3年次	前期	・生徒の進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善、体験活動及び評価改善の推進やガイダンス、カウンセリングの素養を身に付ける。 ・学校と地域との連携・協働の必要性、学校における危機管理や事故対応の必要性を理解する。 ・総合的な学習(探究)の時間の理論と指導法の知識・技能を身に付ける。 ・将来の社会を担う子供たちに必要な資質・能力の教育方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する知識・技能を身に付ける。 ・数学各分野の発展的内容について理解する。 ・数学科教育法の発展的理論を理解する。
	後期	・道徳の意義と原理を踏まえ、道徳科の目標、内容及び指導計画を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成を通して、実践的な指導力を身に付ける。 ・教育活動の意義と目標を踏まえ、諸活動の内容を理解するとともに、特別活動の指導のあり方を理解する。 ・学校現場におけるカウンセリングの課題を理解するとともに、カウンセリングを進める際に必要な知識を身に付ける。 ・数学各分野の発展的内容について理解する。 ・数学科教育法の実践的理論を理解する。
4年次	前期	・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、実験、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・児童生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・数学各分野・数学科教育法の理解をもとに数学科教員としての実践的指導力を身に付ける。
	後期	・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・数学各分野・数学科教育法の理解をもとに数学科教員としての実践的指導力を身に付ける。

＜認知情報科学科＞（認定課程：中一種免 数学）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職概論	線形代数基礎		スポーツ科学	
			数学基礎		英語理解基礎1	
			プログラミング演習		英語表現基礎1	
					英語理解1	
					英語表現1	
					英語理解発展1	
					英語表現発展1	
					数理・データサイエンス・AI入門	
					初年次教育	
	後期	教育原理	線形代数応用		憲法と社会	
		教育行政学	微分積分		AI・プログラミング基礎演習	
			認知情報科学演習			
2年次	前期	教育課程論	幾何学1			
		数学科教育法1	解析学1			
		特別支援教育論	微分方程式			
			確率統計			
	後期	教育心理学	離散数学	介護体験入門		
		数学科教育法2	幾何学2			
			解析学2			
			応用解析			
			統計解析			
			認知科学基礎2			
			マルチメディア基礎2			
3年次	前期	生徒指導・進路指導論	線形代数特論			
		学校経営・連携の理論と実践	マシンラーニング			
		教育の方法・技術とICT				
		総合的な学習(探究)の時間の理論と実践				
		数学科教育法3				
	後期	道德教育の理論と実践	初等整数論			
		特別活動論	グラフィックス			
		教育相談	データマイニング			
		数学科教育法4				
4年次	前期	教育実習事前事後指導				卒業研究
		教育実習A				
	後期	教職実践演習(中・高)				卒業研究
		教育実習A				

様式第7号ウ

＜認知情報科学科＞（認定課程：高一種免 数学）

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ・教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自ら教職キャリア形成を展望する。 ・現代教育に関する基礎的素養（日本国憲法含む）について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学・情報）について理解する。 ・数学の基礎的素養を演習も交えて理解する。
	後期	・教育に関する理念・歴史・思想・制度について理解する。 ・現代の学校教育に関する制度的事項の基本を身に付けるとともに、学校と地域との連携に関する理解と安全への対応を理解する。 ・数学各分野の基礎について理解する。 ・教科に関する実習・演習を通して、数学の基礎的内容を深め、応用力を身に付ける。
2年次	前期	・学習指導要領を基準として各学校で編成される教育課程の意義や編成の方法を理解する。 ・多様な障がい等により特別な支援を必要とする生徒の学習上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員と協働して対応する知識・方法を理解する。 ・高等教育の授業実践について理解し、授業を行うために必要な知識や技能を身に付ける。 ・数学科教育法の基礎的理論を理解する。 ・数学各分野の基本的内容について理解する。
	後期	・生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的事項を理解するとともに、発達段階毎の心理的特性を踏まえた指導法を理解する。 ・教科に関する実習・演習を通して、数学の内容を深め、応用力を身に付ける。 ・数学各分野の基本的内容について理解する。 ・数学科教育法の発展的理論を理解する。
3年次	前期	・生徒の進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善、体験活動及び評価改善の推進やガイダンス、カウンセリングの素養を身に付ける。 ・学校と地域との連携・協働の必要性、学校における危機管理や事故対応の必要性を理解する。 ・総合的な学習（探究）の時間の理論と指導法の知識・技能を身に付ける。 ・将来の社会を担う子供たちに必要な資質・能力の教育方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する知識・技能を身に付ける。 ・数学各分野の発展的内容について理解する。
	後期	・道徳の意義と原理を踏まえ、道徳科の目標、内容及び指導計画を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成を通して、実践的な指導力を身に付ける。 ・教育活動の意義と目標を踏まえ、諸活動の内容を理解するとともに、特別活動の指導のあり方を理解する。 ・学校現場におけるカウンセリングの課題を理解するとともに、カウンセリングを進める際に必要な知識を身に付ける。 ・数学各分野の発展的内容について理解する。 ・数学科教育法の実践的理論を理解する。
4年次	前期	・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、実験、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・児童生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・数学各分野・数学科教育法の理解をもとに数学科教員としての実践的指導力を身に付ける。
	後期	・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・数学各分野・数学科教育法の理解をもとに数学科教員としての実践的指導力を身に付ける。

<認知情報科学科>（認定課程：高一種免 数学）

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職概論	線形代数基礎		スポーツ科学	
			数学基礎		英語理解基礎1	
			プログラミング演習		英語表現基礎1	
					英語理解1	
					英語表現1	
					英語理解発展1	
					英語表現発展1	
					数理・データサイエンス・AI入門	
					初年次教育	
	後期	教育原理	線形代数応用		憲法と社会	
		教育行政学	微分積分		AI・プログラミング基礎演習	
			認知情報科学演習			
2年次	前期	教育課程論	幾何学1			
		数学科教育法1	解析学1			
		特別支援教育論	微分方程式			
			確率統計			
	後期	教育心理学	離散数学			
		数学科教育法2	幾何学2			
			解析学2			
			応用解析			
			統計解析			
			認知科学基礎2			
			マルチメディア基礎2			
3年次	前期	生徒指導・進路指導論	線形代数特論			
		学校経営・連携の理論と実践	マシンラーニング			
		教育の方法・技術とICT				
		総合的な学習（探究）の時間の理論と実践				
		数学科教育法3				
	後期	特別活動論	初等整数論	道德教育の理論と実践		
		教育相談	グラフィックス			
		数学科教育法4	データマイニング			
4年次	前期	教育実習事前事後指導				卒業研究
		教育実習B				
	後期	教職実践演習（中・高）				卒業研究
		教育実習B				

様式第7号ウ

＜認知情報科学科＞（認定課程：高一種免 情報）

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ・教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自ら教職キャリア形成を展望する。 ・現代教育に関する基礎的素養(日本国憲法含む)について理解する。 ・教職に関する基礎的素養(スポーツ・語学・情報)について理解する。 ・情報各分野の基礎的素養を演習も交えて理解する。
	後期	・教育に関する理念・歴史・思想・制度について理解する。 ・現代の学校教育に関する制度的事項の基本を身に付けるとともに、学校と地域との連携に関する理解と安全への対応を理解する。 ・情報各分野の基礎について理解する。 ・教科に関する実習・演習を通して、情報の基礎的内容を深め、応用力を身に付ける。
2年次	前期	・学習指導要領を基準として各学校で編成される教育課程の意義や編成の方法を理解する。 ・多様な障がい等により特別な支援を必要とする生徒の学習上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員と協働して対応する知識・方法を理解する。 ・高等教育の授業実践について理解し、授業を行うために必要な知識や技能を身に付ける。 ・情報科教育法の基礎的理論を理解する。 ・情報各分野の基本的内容を実験も交えて実践的に理解する。
	後期	・生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的事項を理解するとともに、発達段階毎の心理的特性を踏まえた指導法を理解する。 ・教科に関する実習・演習を通して、情報の内容を深め、応用力を身に付ける。 ・情報各分野の基本的内容について理解する。 ・情報科教育法の発展的理論を実験も交えて実践的に理解する。
3年次	前期	・生徒の進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善、体験活動及び評価改善の推進やガイダンス、カウンセリングの素養を身に付ける。 ・学校と地域との連携・協働の必要性、学校における危機管理や事故対応の必要性を理解する。 ・総合的な学習(探究)の時間の理論と指導法の知識・技能を身に付ける。 ・将来の社会を担う子供たちに必要な資質・能力の教育方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する知識・技能を身に付ける。 ・情報各分野の発展的内容について理解する。
	後期	・道徳の意義と原理を踏まえ、道徳科の目標、内容及び指導計画を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成を通して、実践的な指導力を身に付ける。 ・教育活動の意義と目標を踏まえ、諸活動の内容を理解するとともに、特別活動の指導のあり方を理解する。 ・学校現場におけるカウンセリングの課題を理解するとともに、カウンセリングを進める際に必要な知識を身に付ける。 ・情報各分野の発展的内容について理解する。 ・情報科を学ぶ生徒に、将来の進路・職業観を理解させ、進路選択を支援できるキャリア教育能力を身に付ける。
4年次	前期	・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、実験、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・情報各分野・情報科教育法の理解をもとに情報科教員としての実践的指導力を身に付ける。
	後期	・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・情報各分野・情報科教育法の理解をもとに情報科教員としての実践的指導力を身に付ける。

<認知情報科学科>（認定課程：高一種免 情報）

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
年次	時期	各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	前期	教職概論	プログラミング演習		スポーツ科学	
					英語理解基礎1	
					英語表現基礎1	
					英語理解1	
					英語表現1	
					英語理解発展1	
					英語表現発展1	
					数理・データサイエンス・AI入門	
					初年次教育	
	後期	教育原理	認知科学概論		憲法と社会	
		教育行政学	情報科学概論		AI・プログラミング基礎演習	
			認知情報科学演習			
2年次	前期	教育課程論	ソフトウェア基礎1			
		教育と社会	認知情報科学実験1			
		情報科教育法1	人工知能基礎1			
		特別支援教育論	ネットワーク基礎1			
			マルチメディア基礎1			
	後期	教育心理学	ソフトウェア基礎2			
		情報科教育法2	認知情報科学実験2			
			人工知能基礎2			
3年次	前期	生徒指導・進路指導論	ヒューマンコンピュータインタラクション			
		学校経営・連携の理論と実践	ソフトウェア工学			
		教育の方法・技術とICT	ネットワーク応用			
		総合的な学習(探究)の時間の理論と実践	コンピュータビジョン			
	後期	特別活動論	プロジェクトマネジメント	道德教育の理論と実践		
		教育相談	データマイニング			
			センシングとIoT			
			自然言語処理			
			情報と職業			
4年次	前期	教育実習事前事後指導				卒業研究
		教育実習B				
	後期	教職実践演習(中・高)				卒業研究
		教育実習B				

様式第7号ウ

＜高度応用情報科学科＞（認定課程：中一種免 数学）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ・教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自ら教職キャリア形成を展望する。 ・現代教育に関する基礎的素養(日本国憲法含む)について理解する。 ・教職に関する基礎的素養(スポーツ・語学・情報)について理解する。 ・数学の基礎的内容について理解する。
	後期	・教育に関する理念・歴史・思想・制度について理解する。 ・現代の学校教育に関する制度的事項の基本を身に付けるとともに、学校と地域との連携に関する理解と安全への対応を理解する。 ・数学各分野の基礎的内容について理解する。
2年次	前期	・学習指導要領を基準として各学校で編成される教育課程の意義や編成の方法を理解する。 ・多様な障がい等により特別な支援を必要とする生徒の学習上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員と協働して対応する知識・方法を理解する。 ・中等教育の授業実践について理解し、授業を行うために必要な知識や技能を身に付ける。 ・数学各分野の基本的内容について理解する。 ・教科に関する実習・演習を通して、数学の基礎的内容を深め、応用力を身に付ける。
	後期	・生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的事項を理解するとともに、発達段階毎の心理的特性を踏まえた指導法を理解する。 ・介護等体験の意義・目的を理解するとともに、人間の尊厳・社会連携の理念に関する認識を深め、介護体験の動機付けや意識形成を図る。 ・教科に関する実習・演習を通して、数学の内容を深め、応用力を身に付ける。 ・数学各分野の内容について理解する。 ・数学科教育法の基礎的理論を理解する。
3年次	前期	・生徒の進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善、体験活動及び評価改善の推進やガイダンス、カウンセリングの素養を身に付ける。 ・学校と地域との連携・協働の必要性、学校における危機管理や事故対応の必要性を理解する。 ・総合的な学習(探究)の時間の理論と指導法の知識・技能を身に付ける。 ・将来の社会を担う子供たちに必要な資質・能力の教育方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する知識・技能を身に付ける。 ・数学各分野の発展的内容について理解する。 ・数学科教育法の発展的理論を理解する。
	後期	・道徳の意義と原理を踏まえ、道徳科の目標、内容及び指導計画を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成を通して、実践的な指導力を身に付ける。 ・教育活動の意義と目標を踏まえ、諸活動の内容を理解するとともに、特別活動の指導のあり方を理解する。 ・学校現場におけるカウンセリングの課題を理解するとともに、カウンセリングを進める際に必要な知識を身に付ける。 ・数学各分野の発展的内容について理解する。 ・数学科教育法の実践的理論を理解する。
4年次	前期	・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、実験、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・児童生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・数学各分野・数学科教育法の理解をもとに数学科教員としての実践的指導力を身に付ける。
	後期	・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・数学各分野・数学科教育法の理解をもとに数学科教員としての実践的指導力を身に付ける。

<高度応用情報科学科>（認定課程：中一種免 数学）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職概論	線形代数基礎		スポーツ科学	
			数学基礎		英語理解基礎1	
					英語表現基礎1	
					英語理解1	
					英語表現1	
					英語理解発展1	
					英語表現発展1	
					数理・データサイエンス・AI入門	
					初年次教育	
	後期	教育原理	線形代数応用		憲法と社会	
		教育行政学	微分積分		AI・プログラミング基礎演習	
2年次	前期	教育課程論	情報数学1			
		数学科教育法1	幾何学1			
		特別支援教育論	解析学1			
			微分方程式			
			数理モデリング			
			確率統計			
			NWプログラミング基礎演習			
	後期	教育心理学	離散数学	介護体験入門		
		数学科教育法2	情報数学2			
			幾何学2			
			解析学2			
			応用解析			
			統計解析			
			社会数理モデリング			
			NWプログラミング応用演習			
			データサイエンス入門			
			データサイエンス演習			
3年次	前期	生徒指導・進路指導論	線形代数特論			
		学校経営・連携の理論と実践	金融工学			
		教育の方法・技術とICT	機械学習基礎			
		総合的な学習（探究）の時間の理論と実践				
		数学科教育法3				
	後期	道德教育の理論と実践	初等整数論			
		特別活動論	機械学習応用			
		教育相談				
		数学科教育法4				
4年次	前期	教育実習事前事後指導				卒業研究
		教育実習A				
	後期	教職実践演習（中・高）				卒業研究
		教育実習A				

様式第7号ウ

＜高度応用情報科学科＞（認定課程：高一種免 数学）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ・教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自ら教職キャリア形成を展望する。 ・現代教育に関する基礎的素養（日本国憲法含む）について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学・情報）について理解する。 ・数学の基礎的内容について理解する。
	後期	・教育に関する理念・歴史・思想・制度について理解する。 ・現代の学校教育に関する制度的事項の基本を身に付けるとともに、学校と地域との連携に関する理解と安全への対応を理解する。 ・数学各分野の基礎的内容について理解する。
2年次	前期	・学習指導要領を基準として各学校で編成される教育課程の意義や編成の方法を理解する。 ・多様な障がい等により特別な支援を必要とする生徒の学習上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員と協働して対応する知識・方法を理解する。 ・高等教育の授業実践について理解し、授業を行うために必要な知識や技能を身に付ける。 ・数学科教育法の基礎的理論を理解する。 ・数学各分野の基本的内容について理解する。 ・教科に関する実習・演習を通して、数学の基礎的内容を深め、応用力を身に付ける。
	後期	・生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的事項を理解するとともに、発達段階毎の心理的特性を踏まえた指導法を理解する。 ・教科に関する実習・演習を通して、数学の内容を深め、応用力を身に付ける。 ・数学各分野の基本的内容について理解する。 ・数学科教育法の発展的理論を理解する。
3年次	前期	・生徒の進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善、体験活動及び評価改善の推進やガイダンス、カウンセリングの素養を身に付ける。 ・学校と地域との連携・協働の必要性、学校における危機管理や事故対応の必要性を理解する。 ・総合的な学習（探究）の時間の理論と指導法の知識・技能を身に付ける。 ・将来の社会を担う子供たちに必要な資質・能力の教育方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する知識・技能を身に付ける。 ・数学各分野の発展的内容について理解する。
	後期	・道徳の意義と原理を踏まえ、道徳科の目標、内容及び指導計画を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成を通して、実践的な指導力を身に付ける。 ・教育活動の意義と目標を踏まえ、諸活動の内容を理解するとともに、特別活動の指導のあり方を理解する。 ・学校現場におけるカウンセリングの課題を理解するとともに、カウンセリングの進める際に必要な知識を身に付ける。 ・数学各分野の発展的内容について理解する。 ・数学科教育法の実践的理論を理解する。
4年次	前期	・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、実験、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・児童生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・数学各分野・数学科教育法の理解をもとに数学科教員としての実践的指導力を身に付ける。
	後期	・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・数学各分野・数学科教育法の理解をもとに数学科教員としての実践的指導力を身に付ける。

<高度応用情報科学科>（認定課程：高一種免 数学）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
年次	時期	各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	前期	教職概論	線形代数基礎		スポーツ科学	
			数学基礎		英語理解基礎1	
					英語表現基礎1	
					英語理解1	
					英語表現1	
					英語理解発展1	
					英語表現発展1	
					数理・データサイエンス・AI入門	
					初年次教育	
	後期	教育原理	線形代数応用		憲法と社会	
		教育行政学	微分積分		AI・プログラミング基礎演習	
2年次	前期	教育課程論	情報数学1			
		数学科教育法1	幾何学1			
		特別支援教育論	解析学1			
			微分方程式			
			数理モデリング			
			確率統計			
			NWプログラミング基礎演習			
	後期	教育心理学	離散数学			
		数学科教育法2	情報数学2			
			幾何学2			
			解析学2			
			応用解析			
			統計解析			
			社会数理モデリング			
			NWプログラミング応用演習			
			データサイエンス入門			
			データサイエンス演習			
3年次	前期	生徒指導・進路指導論	線形代数特論			
		学校経営・連携の理論と実践	金融工学			
		教育の方法・技術とICT	機械学習基礎			
		総合的な学習（探究）の時間の理論と実践				
		数学科教育法3				
	後期	特別活動論	初等整数論	道德教育の理論と実践		
		教育相談	機械学習応用			
		数学科教育法4				
4年次	前期	教育実習事前事後指導				卒業研究
		教育実習B				
	後期	教職実践演習（中・高）				卒業研究
		教育実習B				

様式第7号ウ

＜高度応用情報科学科＞（認定課程：高一種免 情報）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ・教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自ら教職キャリア形成を展望する。 ・現代教育に関する基礎的素養（日本国憲法含む）について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学・情報）について理解する。 ・情報各分野の基礎的内容について理解する。
	後期	・教育に関する理念・歴史・思想・制度について理解する。 ・現代の学校教育に関する制度的事項の基本を身に付けるとともに、学校と地域との連携に関する理解と安全への対応を理解する。 ・情報各分野の基礎的内容について理解する。
2年次	前期	・学習指導要領を基準として各学校で編成される教育課程の意義や編成の方法を理解する。 ・多様な障がい等により特別な支援を必要とする生徒の学習上の困難を理解し、個別的教育的ニーズに対して、他の教員と協働して対応する知識・方法を理解する。 ・高等教育の授業実践について理解し、授業を行うために必要な知識や技能を身に付ける。 ・情報科教育法の基礎的理論を理解する。 ・情報各分野の基本的内容について理解する。
	後期	・生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的事項を理解するとともに、発達段階毎の心理的特性を踏まえた指導法を理解する。 ・教科に関する実習・演習を通して、情報の内容を深め、応用力を身に付ける。 ・情報各分野の基本的内容について理解する。 ・情報科教育法の発展的理論を理解する。
3年次	前期	・生徒の進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善、体験活動及び評価改善の推進やガイダンス、カウンセリングの素養を身に付ける。 ・学校と地域との連携・協働の必要性、学校における危機管理や事故対応の必要性を理解する。 ・総合的な学習（探究）の時間の理論と指導法の知識・技能を身に付ける。 ・将来の社会を担う子供たちに必要な資質・能力の教育方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する知識・技能を身に付ける。 ・情報各分野の発展的内容を実験も交えて実践的に理解する。
	後期	・道徳の意義と原理を踏まえ、道徳科の目標、内容及び指導計画を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成を通して、実践的な指導力を身に付ける。 ・教育活動の意義と目標を踏まえ、諸活動の内容を理解するとともに、特別活動の指導のあり方を理解する。 ・学校現場におけるカウンセリングの課題を理解するとともに、カウンセリングの進める際に必要な知識を身に付ける。 ・情報各分野の発展的内容を実験も交えて実践的に理解する。 ・情報科を学ぶ生徒に、将来の進路・職業観を理解させ、進路選択を支援できるキャリア教育能力を身に付ける。
4年次	前期	・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、実験、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・情報各分野・情報科教育法の理解をもとに情報科教員としての実践的指導力を身に付ける。
	後期	・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・情報各分野・情報科教育法の理解をもとに情報科教員としての実践的指導力を身に付ける。

＜高度応用情報科学科＞（認定課程：高一種免 情報）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職概論	情報リテラシ		スポーツ科学	
			高度応用情報科学概論1		英語理解基礎1	
					英語表現基礎1	
					英語理解1	
					英語表現1	
					英語理解発展1	
					英語表現発展1	
					数理・データサイエンス・AI入門	
					初年次教育	
	後期	教育原理	高度応用情報科学概論2		憲法と社会	
		教育行政学	ICT基礎		AI・プログラミング基礎演習	
2年次	前期	教育課程論	データ構造とアルゴリズム			
		情報科教育法1	情報メディア基礎			
		特別支援教育論				
	後期	教育心理学	データサイエンス入門			
		情報科教育法2	データサイエンス演習			
			OSとシステムソフトウェア			
3年次	前期		情報ネットワーク			
		生徒指導・進路指導論	ソフトコンピューティング			
		学校経営・連携の理論と実践	データベース			
		教育の方法・技術とICT	LAN			
		総合的な学習(探究)の時間の理論と実践	Webプログラミング基礎実験			
			クラウドコンピューティング			
			クラウド構築演習			
			マルチメディア情報処理			
	後期	特別活動論	Webプログラミング応用実験	道徳教育の理論と実践		
		教育相談	IoTシステム			
			IoTシステム構築実験			
			サイバーセキュリティ			
			サイバーセキュリティ実験			
4年次	前期	教育実習事前事後指導				卒業研究
		教育実習B				
	後期	教職実践演習(中・高)				卒業研究
		教育実習B				

様式第7号ウ

＜経営デザイン科学科＞（認定課程：高一種免 情報）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・教職についての基礎的理解を図り、教科内容について理解する。 ・教職の意義及び教員の役割について理解するとともに、自ら教職キャリア形成を展望する。 ・現代教育に関する基礎的素養（日本国憲法含む）について理解する。 ・教職に関する基礎的素養（スポーツ・語学・情報）について理解する。 ・情報各分野の基礎的内容を演習も交えて理解する。
	後期	・教育に関する理念・歴史・思想・制度について理解する。 ・現代の学校教育に関する制度的事項の基本を身に付けるとともに、学校と地域との連携に関する理解と安全への対応を理解する。 ・情報各分野の基礎的内容について理解する。 ・教科に関する実習・演習を通して、情報の基礎的内容を深め、応用力を身に付ける。
2年次	前期	・学習指導要領を基準として各学校で編成される教育課程の意義や編成の方法を理解する。 ・多様な障がい等により特別な支援を必要とする生徒の学習上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員と協働して対応する知識・方法を理解する。 ・高等教育の授業実践について理解し、授業を行うために必要な知識や技能を身に付ける。 ・情報科教育法の基礎的理論を理解する。 ・情報各分野の内容を演習も交えて理解する。
	後期	・生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的事項を理解するとともに、発達段階毎の心理的特性を踏まえた指導法を理解する。 ・教科に関する実習・演習を通して、情報の内容を深め、応用力を身に付ける。 ・情報各分野の基本的内容について理解する。 ・情報科教育法の発展的理論を理解する。
3年次	前期	・生徒の進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善、体験活動及び評価改善の推進やガイダンス、カウンセリングの素養を身に付ける。 ・学校と地域との連携・協働の必要性、学校における危機管理や事故対応の必要性を理解する。 ・総合的な学習（探究）の時間の理論と指導法の知識・技能を身に付ける。 ・将来の社会を担う子供たちに必要な資質・能力の教育方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する知識・技能を身に付ける。 ・情報各分野の発展的内容について理解する。
	後期	・道徳の意義と原理を踏まえ、道徳科の目標、内容及び指導計画を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成を通して、実践的な指導力を身に付ける。 ・教育活動の意義と目標を踏まえ、諸活動の内容を理解するとともに、特別活動の指導のあり方を理解する。 ・学校現場におけるカウンセリングの課題を理解するとともに、カウンセリングを進める際に必要な知識を身に付ける。 ・情報各分野の発展的内容について理解する。 ・情報科を学ぶ生徒に、将来の進路・職業観を理解させ、進路選択を支援できるキャリア教育能力を身に付ける。
4年次	前期	・教員としての資質能力を補充・深化・統合する。 ・教員としての資質をさらに発展させるために、実験、演習、実習を通じて補充・深化・統合を図る。 ・生徒及び学級経営の発展的な理解をもとに、自己の問題意識を深める。 ・情報各分野・情報科教育法の理解をもとに情報科教員としての実践的指導力を身に付ける。
	後期	・自己課題・現代的教育課題について自律的に取り組む。 ・自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追及する。 ・これからの学校教育と自己の課題について、集団的な議論を踏まえ、自己課題を追求する。 ・情報各分野・情報科教育法の理解をもとに情報科教員としての実践的指導力を身に付ける。

＜経営デザイン科学科＞（認定課程：高一種免 情報）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	前期	教職概論	データサイエンスⅠ		スポーツ科学	
					英語理解基礎1	
					英語表現基礎1	
					英語理解1	
					英語表現1	
					英語理解発展1	
					英語表現発展1	
					数理・データサイエンス・AI入門	
					初年次教育	
	後期	教育原理	知識社会のマネジメント		憲法と社会	
		教育行政学	データサイエンスⅡ		AI・プログラミング基礎演習	
			データサイエンスの線形代数			
			コンピュータサイエンス入門			
			情報処理基礎			
2年次	前期	教育課程論	データサイエンスⅢ			
		情報科教育法1	IoT技術活用論			
		特別支援教育論	情報とセキュリティ			
	後期	教育心理学	データサイエンスⅣ			
		情報科教育法2	意思決定の数理			
3年次	前期	生徒指導・進路指導論	プロジェクトマネジメント			
		学校経営・連携の理論と実践	情報数学			
		教育の方法・技術とICT	データサイエンスの統計解析			
		総合的な学習（探究）の時間の理論と実践				
	後期	特別活動論	データサイエンスとデータベース	道德教育の理論と実践		
		教育相談	フィールド情報学			
			ソフトウェア開発の定量化技法			
			経営情報システム			
			情報ネットワーク			
			デジタルコンテンツクリエイション			
			情報と職業			
4年次	前期	教育実習事前事後指導				卒業研究
		教育実習B				
	後期	教職実践演習（中・高）				卒業研究
		教育実習B				